

川越市(埼玉県)の一体的実施

平成24年10月1日事業開始

川越しごと支援センター内に「ハローワークコーナー」を開設し、市とハローワークによる生活保護受給者、ひとり親、障がい者等求職者全般を対象に一体的支援等を実施

市

就労支援サービス
相談実施等



国

職業相談・職業紹介の実施等

① 事業内容

- ・生活保護受給者、住宅手当受給者、ひとり親等の生活困窮者、障がい者に対する就労支援及び巡回相談
- ・一般求職者の職業相談・職業紹介
- ・就職面接会の開催
- ・就職支援セミナーの開催

② 協定・事業計画

- ・川越市長と埼玉労働局長の間で協定(*)を締結
- ・数値目標を盛り込んだ事業計画を川越市と埼玉労働局の間で策定

* 協定の実施等について相互に要望することができ、出された要望には誠実に対応する旨を規定

③ 運営協議会

- ・川越市長、川越市職員、埼玉労働局職員、労使団体代表者をメンバーとする運営協議会を設置(川越市長が会長)



市役所の南分室に「川越しごと支援センター」を設置。市と国の職員が連携し、市の就労支援事業とハローワークの職業相談・職業紹介との一体的な運営を実現。

(1) 実施体制

市

- ・ 就労支援相談員6名を配置
- ・ しごと相談員4名を配置
- ・ 適性診断端末1台を配置

国

- ・ 就職支援ナビ1名
職業相談員2名を配置
- ・ 求人情報提供端末4台
職業紹介端末2台を配置

(2) 事業目標と取組状況

	25年度事業目標	取組状況(平成25年10月末時点)
一般求職者・生活困窮者等に対する就職支援	◇紹介就職 年420件以上 うち生活困窮者等60件以上	◇紹介就職 220件(25年10月末時点累計) うち生活困窮者等60件
その他の再就職支援	◇就職支援セミナーの開催 年24回以上(月2回以上)	◇就職支援セミナー40回
	◇就職面接会の開催 年4回以上	◇就職面接会1回

一体的実施事業による就職成功例

男性：60代、希望職種：配管・溶接、直近の雇用形態：社員（約30年勤務）

→ 2年前に失業、生活費困窮。ケースワーカー、市就労支援員の支援を経て、川越しごと支援センターを利用。

① 抱える課題

- ・ 2年間就労していない。また就職活動は30年ぶりとなるため、どのように活動したらよいかわからない。
- ・ 溶接経験は長いですが、技術革新が進む中、2年前のスキルで通用するか不安を抱えている。
- ・ パートとして採用されるが、本人スキルと企業側の求めるスキルにミスマッチがあり再離職。精神的ダメージを受ける。

② 支援内容・ポイント・経過

- ・ 市就労支援員と事前打合せ。その後、本人を交え、キャリアや希望について確認し、本人納得の上で就職活動スタート。市就労支援員とハローワーク相談員が一体となって書類作成、面接訓練等の支援を実施。
- ・ 継続して働く上で負担となることのないよう、通勤場所については住まいに近いところを探す。
- ・ その結果、パート社員として採用されるが、企業側の求めるスキルと本人スキルとの間のミスマッチにより再離職。
- ・ 再離職による精神的ダメージが大きいことから、市就労支援員とも連携を取りつつ、離職に至った経緯等を確認、ミスマッチ原因を探るとともに、過去の成功体験を聴きだすなど、自己効力感を持たせ、気持ちの整理を促す。
- ・ 就職活動の再開に向けてあらためて意欲喚起。前回の失敗を踏まえ、経験の活かせる求人について、市就労支援員の協力も得ながら情報収集し、応募、採用に至る。

③ 結果

- ・ アーク溶接スキルを活かした電気工事会社に採用される。

○ ハローワークの担当者の所感

ようやく再就職した後の再離職。その後の活動に大きな不安を抱えてしまったが、市就労支援員とも連携しつつ相談を重ねた結果、再度、就職活動に前向きになっていただけだったが、今回の就職に繋がったと考えられる。